

新型コロナウイルス感染症海外短信 — ドイツ XIII

2022年5月18日

加久間 景子*

1. 現状—2022年3月から4月の動き

2022年2月感染者数が始めて減少し、ピークは過ぎたと見られていた。しかし、現実には、2月初めのカーニバル後に再度増え続ける結果となった。3月に至っては、殆どの地域で、人口10万人に対する7日間の新規感染者平均値が5,000人を超えることとなり、最高10,000人に近づく地域も存在した。これは、2019年冬からコロナ感染が始まって以降、最悪の値である。しかし、以前との違いは、ワクチン接種が始まっていること、及びオミクロン株特有の性質として感染力は強くとも呼吸器関係の重症者が少なく死亡者も少ないことである。

その中で、ワクチン接種体制が充分であること、随時接種実施可能な状況となっていることを考慮すると、ロックダウン措置を取ることは理解を得られず、また、経済への影響を避けることを重要視すべきだという考え方に変化している。

昨年11月、メルケル首相(CDU/CSU ドイツキリスト教民主同盟)が退任し、ドイツ社会民主党(SPD)、緑の党、自由民主党(FDP)の新たな連立政権が成立した。シュルツ首相(SPD)、及びラウターバハ厚生大臣(SPD)は、ワクチン接種義務化を提案し論議されたが、自由の権利を冒す等の反対意見も多く週末に各地でデモが継続して行われワクチン接種義務化には至っていない。3月半ばからは、医療・介護関係者に対してのみこの義務化は実行されている。

しかし、ワクチン未接種者を対象とするロックダウン的な対策は厳しく行われ(この件については以前に触れたので省くことにするが)、政府の対策に反対する動きが更に強くなりコロナ勃発時から比べると、陰悪な雰囲気町に溢れていたのは事実である。

昨年11月初に、全国一律でコロナ政策を可能とする法律の期限が終了し、現在は国の政策が示され、その後州毎に感染状態により対策が個別に決定されている。

3月19日からコロナ対策が緩和されることが決まっていたが、州によって状況が異なり、結果的に地域により対策面で大きな違いが生じて混乱する事態も多く現出した。

幸い、4月になり新規感染者数平均値が約5,000人/週であったのが、1,000人/週を割る地域も増え、これまでのコロナ対策は4月の第二週をもって全国的に終了することが伝えられた。多くの州ではマスク装着は義務化ではなくとも、推奨され公の施設及び交通機関その他の多く集まる催し会場等で使用されている。

現在、街なかではマスクはほとんど姿を消している。但し買い物のため店に入る時は、多くの人がマスクを装着している。

2. ワクチン接種

5月現在、2回目までのワクチン接種者は、80%弱に留まり逆にブースター接種者は63%となっている。2回目のブースター接種は3ヶ月から6ヶ月の間に行うことが推奨されており、現在開業医で僅かな待ち時間で受けることが可能である。5月半ば現在、人口10万人に対しての新規感染者7日間の平均値は500人を切る所迄落ち着いている。

3. 2022年夏～秋への懸念

5月初めに、RKI(ロバート・コッホ研究所)が、ドイツのコロナの状態を「とても最高」から「最高」に下げると発表した。しかし、あくまで9月末に抗オミクロン成分が含まれるワクチンが市場に出回るのを待たずに4度目のワクチン接種を行うことが必要としている。秋にオミクロン株が変化又は新種の更に強力なデルタ変異株の出現の可能性もあるとして、それに対する次のワクチン接種の必要性もあるとして準備が行われていると報道されている。

* 在ドイツ音楽家。なお、本稿は、加久間景子氏からの情報提供を、本財団理事長光多長温がまとめたものである。

4. マスク

ヨーロッパ各国でワクチン接種が進んでいることから、数日前に、飛行場、飛行中のマスク装着義務は中止されることが決定した。しかし、現在のところ、ドイツにおいては公共交通機関内を含め、今まで通りマスク装着は必要であるとしている。ヨーロッパ内で違いがでる訳で、ドイツの航空会社ルフトハンザなどは国外でもマスク装着義務は続ける模様である。

以上